

# 平成 28 年度事業報告

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

当協会は、平成 28 年 5 月 12 日(木)開催の第 4 回定時総会において、施工管理事業、品質管理事業、広報事業を骨格とする平成 28 年度の事業計画と約 7,300 万円(断熱特別会計を含む)の予算を決定し、これに基づき以下の事業を実施したので報告する。

平成 28 年度は、金属屋根・外壁に関する入門図書『初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁』の編集作業、鋼板一文字葺きの耐風圧性試験、新たな屋根 30 分耐火構造認定の取得などを進めたほか、金属屋根・外壁に関連する各種技術情報を積極的に公開した。

## 1. 組織運営

### (1) 会議

事業計画の円滑な執行を図るため、次の会議並びに委員会を運営した。

表 1 会議・委員会

会議・委員会	所管事項
正副会長会議	事業及び予算執行に関する事項
審査委員会	技術審査の問題作成、合否の判定に関する事項
技術委員会	技術の向上及び技術サ - ビスに関する事項
広報委員会	広報及び機関誌・ホームページに関する事項

表 2 会議・委員会開催経過

総 会	第 4 回:5 月 12 日
理 事 会	第 9 回:5 月 12 日 第 10 回:5 月 12 日 第 11 回:1 月 18 日
賀 詞 交 歓 会	1 月 18 日
正 副 会 長 会 議	4 月 25 日、6 月 30 日、10 月 17 日、12 月 15 日 3 月 6 日
審 査 委 員 会	1 月 11 日
技 術 委 員 会	4 月 12 日、5 月 16 日、6 月 23 日、7 月 5 日、8 月 2 日、9 月 5 日、10 月 3 日、 11 月 1 日、12 月 5 日、12 月 27 日、1 月 11 日 1 月 30 日、2 月 14 日、3 月 13 日
広 報 委 員 会	4 月 6 日、5 月 10 日、6 月 7 日、7 月 12 日、9 月 8 日、10 月 5 日、11 月 4 日 12 月 1 日、1 月 12 日、2 月 2 日、3 月 8 日

(2) 会員の異動状況

平成 29 年 3 月末における会員の異動状況は次の通りである。

表 3 会員移動状況

会員区分	期 首	増加数	減少数	3 月末
正 会 員	267		12	255
特別正会員	106	1		107
特 別 会 員	10			10
賛 助 会 員	32			32
合 計	415	1	12	404

(3) 役員改選

第 4 回定時総会で任期満了に伴う役員改選を行った。理事・監事の退任・新任は表 4 の通り。また、総会後の第 10 回理事会において、正副会長・専務理事の選任と相談役・顧問・参与の選任を表、表 6 の通り行った。

表 4 退任・新任 理事・監事

	退 任		新 任	
理事	青 木 正 行	NSSB 奥平スチール(株)	出 雲 克 彦	JFE 日建板(株)
	井 澤 純 司	北海鋼機(株)	岩 城 治 夫	北海鋼機(株)
	大 江 源 一	大江金属工業(株)	大 島 聡	北長金日米建材(株)
	熊 谷 敏 男	JFE 日建板(株)	春 原 典 明	綿半ソリューションズ(株)
	金 田 敏 雄	(株)日江金属	立 花 徳 也	NSSB 奥平スチール(株)
	椎 名 英 也	綿半ソリューションズ(株)	山 崎 範 幸	月星商事(株)
	繁 澤 潤 一 郎	月星商事(株)		
	星 川 昇	(株)ホシカワ		
	横 山 周 明	北長金日米建材(株)		

表 5 正副会長・専務理事

役 職	氏 名	所 属	備 考
会 長	右 田 裕 之	三晃金属工業(株) 代表取締役社長	
副 会 長	河 本 善 博	(株)淀川製鋼所 上席執行役員開発本部長	
〃	三 宅 英 徳	JFE 鋼板(株) 常務取締役	
〃	出 雲 克 彦	JFE 日建板(株) 代表取締役社長	新任
〃	出 口 保 行	(株)久忠 取締役会長	新任
専務理事	濱 野 浩 幸	(一社)日本金属屋根協会 事務局長	

表6 相談役・顧問・参与

役職	氏名	所属等	備考
相談役	鈴木章夫	元会長	
	吉田伸彦	前会長	
顧問	別所一美	元副会長	
	海老原弘士	前副会長	新任
	熊谷敏男	前副会長	新任
参与	吉井郁雄	三晃金属工業(株) 常務取締役	新任
	井上勝彦	前技術委員	

## 2. 安全対策事業

### (1) 安全対策

機関誌に以下の安全関連記事を掲載した。

\*7・8月号:熱中症対策

## 3. 調査研究事業

### (1) 社会保険加入促進に関する周知活動の実施

機関誌(1月号・2月号)に関連記事を掲載するほか、社会保険の加入促進に向け、会員企業等からの問い合わせに対応した。

### (2) 若年労働者育成に関する調査等

「ものづくり大学」への講師派遣

「ものづくり大学」からの要請により「鋼構造実習」の非常勤講師を派遣した。講師は工藤技術主幹が担当し、折板屋根に関する内容を中心に90分講義・12単位の授業を担当した。また、授業の一環として三晃金属工業・深谷製作所の視察を行った。

中央職業能力開発協会への中央技能検定委員の派遣

建築板金(内外装板金作業)の中央技能検定員として宮腰技術委員長、工藤技術主幹を派遣した。これと関連し、中央職業能力開発協会から、「永年にわたる技能検定事業に係る功労」で会長表彰を受賞した。昭和55年から中央技能検定委員を派遣していることが主たる理由。

### (3) 内外装板金・外国人研修生制度への対応

厚生労働省における外国人研修生の受け入れの前提となる「公的技能評価制度」の創設について協力した。今年度は内外装板金作業の技能検定基準等の検討・作成に専門調査員・技能検定員を派遣した。全体のスケジュールは以下の通り。

28年度:評価試験基準の作成(厚生労働省)

28年度:専門家会議で適合性確認(厚生労働省)

29年度:専門家会議で適合性確認(厚生労働省)、制度実施予定。

### (4) 海外情勢の調査

オランダ・ユトレヒトで開催された建材関係の展示会『Bouw Beurs 2017』の視察を中心とする視察団を派遣した。期間は2月5日～2月12日。参加者は10名。

#### (5) 中国建築防水協会との意見交換

中国建築防水協会と日中両国の屋根市場、技術、技能者の育成等について意見交換を行った。

# 日時・場所:10月14日(金) 16:00~18:00 @淀川製鋼所・東京支社

# 出席者:中国建築防水協会 = 副会長・秘書長・技術コンサルの3名

協会側 = 右田会長、河本副会長、事務局(濱野・工藤)

また、3月24日に開催された中国建築防水協会の年次大会において河本副会長が、「日本の金属屋根技術の現状と発展」と題して講演を行った。

#### (6) 金属屋根等に関する統計調査の実施

4月に平成27年度における金属屋根、粘土瓦、厚形スレート、化粧スレート、波形スレートの出荷量、並びに金属屋根・外壁素材の出荷量に関する調査を実施した。調査結果はホームページで公開した。

表7 各種屋根材の出荷動向・面積比較(単位:千㎡)

年度	金属	セメント瓦	波形スレート	粘土瓦	化粧スレート	合計	金属比率
2000	72,603	9,713	10,200	76,218	31,234	199,968	36.3%
2001	71,261	8,317	8,230	72,046	28,161	188,015	37.9%
2002	66,920	7,562	7,088	69,844	24,110	175,524	38.1%
2003	67,125	7,530	6,718	68,280	25,748	175,401	38.3%
2004	70,142	4,999	7,332	58,892	22,183	163,548	42.9%
2005	82,881	7,149	5,646	57,353	22,711	175,740	47.2%
2006	83,573	6,395	4,698	55,521	20,465	170,652	49.0%
2007	69,836	4,136	3,890	44,372	18,788	141,022	49.5%
2008	54,661	1,941	3,061	38,957	17,078	115,698	47.2%
2009	44,687	2,148	2,176	38,186	15,525	102,722	43.5%
2010	48,663	2,137	2,281	32,588	16,202	101,871	47.8%
2011	51,774	956	2,252	34,123	16,713	105,818	48.9%
2012	55,135	1,125	2,136	33,572	16,975	108,943	50.6%
2013	57,918	1,039	1,716	31,197	17,582	109,452	52.9%
2014	64,009	734	1,586	28,413	16,799	111,541	57.4%
2015	55,468	-	1,684	-	15,844	-	-

\* 金属屋根材、波形スレート、粘土瓦の面積は換算値。換算値は当協会の推計。

### 4. 審査事業

#### (1) 金属屋根工事技士技術審査

平成28年11月19日(土)に札幌、仙台、東京、大阪、福岡の5会場で開催した。可否の判定は1月11日開催の審査委員で行った。

表8 金属屋根工事技士技術審査

地区	会場	申込者数	受験者数	合格者数・率(%)	
				合格者数	率(%)
札幌	札幌市教育文化会館	2	1	1	100.0
仙台	宮城県建設会館	3	3	2	66.7
東京	鉄鋼会館	15	15	11	73.3
大阪	科学技術センター	20	19	14	73.7
福岡	朝日ビル	8	8	7	87.5
合計		48	46	35	76.1

## 5. 施工管理事業

### (1) 金属屋根工事技士「更新講習会」の実施

金属屋根工事技士の資格更新を目的とした講習会を7会場で実施した。講習会は、従来通り「金属屋根講座」として資格者以外にも公開した。

講習は、今年度発行した『初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁-LLM2017-』を中心に行い、昨年度実施した木造建築物における折板接合部の確認試験と本年度実施した一文字ぶき屋根の耐風圧性試験について解説したほか、改定が予定されている積雪荷重の算定方法についても説明した。講師は技術委員が担当した。開催経過は下表の通り。

表9 金属屋根工事技士更新講習会

開催日	地区・会場	対象	申込			出席			講師	
			更新	講座	小計	更新	講座	小計		
2月25日(土)	札幌・自治労会館	31	26	17	43	26	15	41	大室	工藤
	仙台・宮城県建設会館	24	21	14	35	21	14	35	名和手	鈴木
3月4日(土)	高松・高松商工会議所	27	27	17	44	27	17	44	湯本	風間
3月11日(土)	東京・家の光会館	101	91	52	143	86	51	137	宮腰	工藤
3月18日(土)	名古屋・ウイック愛知	45	42	14	56	42	12	54	大室	湯本
	福岡・朝日ビルディング	30	32	26	58	31	25	56	名和手	鈴木
3月25日(土)	大阪・科学技術センター	64	61	20	81	59	18	77	宮腰	風間
		322	300	160	460	292	152	444		

## 6. 品質管理事業

### (1) 『初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁-LLM2017-』の発行

協会ではこれまでSSR2007、SSW2011、MSRW2014等の技術図書を編集・発行してきたが、これらの図書は専門性が高いものとなっていた。このため、初心者・対外向けには“入門編”が必要との観点から、執筆、編集作業を技術委員会で進め、2月に『初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁-LLM2017-』として発行した。

### (2) 鋼板製一文字ぶき屋根の耐風圧性試験の実施

設計事務所等から鋼板製一文字ぶき屋根の強度性能に関する問合せが多いことから、以下の通り

実施した。本試験については(一社)日本銅センターと協力して対応した。

# 期日：10月20日(木)銅センター2体、21日(金)協会分、@建材試験センター

# 試験体作成：10月18日～19日(小野工業所、技術委員会・19日視察)

# 試験体：葺き板、228mm×914mm(JASS12準拠)3'×6'板の8枚切り

亜鉛めっき釘 2.15mm×L 38mm(国交省木造仕様書準拠)

ガルバリウム鋼板素地 0.35mm(セキノ興産)

なお、試験結果については講習会で説明するとともに機関誌3月号に掲載した。

(3) 『鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014』、『鋼板製外壁構法標準 SSW2011』並びに『鋼板製屋根構法標準 SSR2007』の普及  
MSRW2014について、技術委員会で増刷の準備を進めた。

(4) 計算ソフト『屋根を調べる 2017』の作成

『屋根を調べる 2017』を作成した。本計算ソフトには以下のものが含まれている。

風圧力算定ソフト 積雪荷重算定ソフト 屋根性能計算ソフト 工事管理報告書作成ソフト

風圧力関連規定解説書(PDF) 屋根ふき材の構造計算解説書(PDF)

屋根性能計算ソフトでは、以下の計算を行うことが出来る。

表 10 屋根性能計算ソフト内容

耐風強度計算	耐積雪強度計算	性能確認計算
折板強度(連続梁)	折板強度(連続梁)	熱貫流率計算
折板強度(単純梁)	折板強度(単純梁)	断熱性能計算(日射吸収)
折板強度(軒先)	折板強度(軒先)	断熱性能計算(放射冷却)
接合部材・接合部耐風強度	接合部材積雪強度	結露計算
タイトフレーム溶接強度	雪止め金具取付間隔	室内温度上昇計算
パラペット下地強度	母屋・垂木強度	屋根材の熱伸縮量計算
雨とい取付金具強度	野地板強度	透過損失計算
母屋・垂木強度		騒音伝達計算
野地板強度		といの排水量計算
ファスナー取付強度		軒先流層高さ計算
横葺き吊子の引抜強度		
縦葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		
横葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		

(5) 金属屋根に関する技術情報の提供

会員内外を含めて、金属屋根・外壁の設計・施工にかかわる問合せが増加していることなどに対応するため、機関誌並びにホームページに以下の事項を掲載した。

#### 機関誌公表分

- \* 外壁材の飛来物耐衝撃性試験
- \* 木造建築物における折板接合部の確認試験
- \* 金属屋根・外壁と地震
- \* 最新 非住宅の断熱基準と鋼板製外装材(修正版・上)
- \* 金属サイディングによるモルタル壁の重ね張り改修

- \* 留め付けねじの端あき強度試験
- \* 折板屋根 耐火構造の基本
- \* カラーアルミ建材 追跡調査報告 2016
- \* 最先端技術と匠の技で完全球体の防水に挑む
- \* 鋼板「一文字ぶき」動風圧試験 試験結果報告

#### ホームページ公表分

- \* 外壁材の飛来物耐衝撃性試験
- \* 最新 非住宅の断熱基準と鋼板製外装材(修正版・上下)
- \* 鋼製下地への留め付け方法確認試験
- \* 鋼板製屋根・外壁の維持保全と点検
- \* 建築物の台風被害の軽減に資する基規準の変遷

#### (6) 『建築工事標準仕様書』・『建築工事監理指針』改定への対応

国交省の『公共建築工事標準仕様書・平成 28 年度版』並びに『建築工事監理指針・平成 28 年度版』の改定に技術委員会が対応した。

#### (7) 国交省・国土総合技術政策総合研究所の「木造住宅の耐久性向上に関わる建物外皮の構造・仕様とその評価に関する共同研究」への参加

本共同研究では、戸建ての木造住宅を対象として、各種の劣化要因を調査・研究し、耐久性を確保するため、建物外皮(屋根、外壁、バルコニー等)の設計・施工方法を示すとともに、各種の構法や材料・部材に対する評価方法を提案することを目的としている。

#### (8) 日本建築学会『屋根工事標準仕様書 JASS12』改定への対応

(一社)日本建築学会の「屋根工事標準仕様書 JASS12」が約 10 年ぶりに改定されることになり、その作業に技術委員会が対応している。

#### (9) 「木造計画・設計基準」の改定

国交省大臣官房官庁営繕部整備課(木造利用推進室)より平成 23 年度版「木造計画・設計基準」の改定に係る意見照会があり、技術委員会が対応した。

#### (10) 平板ぶき屋根の耐火構造における垂木等の耐火被覆に関する検討

横葺き屋根等野地板を使用する屋根での耐火構造においては、垂木等をケイ酸カルシウム板で耐火被覆する仕様が一般的であるが、他の被覆材料を使用したい等の要望があり、耐火被覆仕様についてコンタクトポイントに小屋組の被覆方法に関する提案を提出した。

本件については、担当部局との協議の結果、国交省の「建築基準基盤整備促進事業」の一環として野地板を使用した屋根耐火構造として告示化を目指して 29 年度以降作業を進めることとなった。

#### (11) UR 都市機構・平形スレート屋根勾配屋根改修仕様策定への協力

UR 都市機構から屋根の改修仕様に対する協力依頼があり、技術委員会が対応することとした。

## 7. 断熱事業

### (1) 運営

事業の円滑な執行を図るため、委員会内部に幹事会、技術分科会を設け活動を行っている。委員長には石川博司氏(JFE鋼板)が、技術分科会長には後藤 治氏(日鉄住金鋼板)が平成 28 年 4 月から就任している。

幹事会、分科会等の開催経過は、以下の通り。

	総会	幹事会	分科会	説明会、工場審査
4月	19日		14日	
5月			16日、30日	20-21日
6月			15日	
7月		28日	19日	15日、22日、29日
8月			24日	
9月		15日	20日	27-29日
10月			20日	5-6日、13日、19日
11月		17日	14日、28日	18日
12月			14日	
1月			16日、26日	
2月		16日	7日、22日	24日
3月		16日	23日	

今年度中の会員の異動状況は以下の通り。

会員区分	期首	増加	減少	28年度期末
正会員	88	3	2	89
賛助会員	9	0	0	9
合計	97	3	2	98

### (2) 耐火構造認定の取得

新規の屋根 30 分耐火構造認定取得に向け、以下の活動を行った

(一財)ベターリビングに於いて平成 28 年 7 月及び 8 月に性能評価試験を行ない、2 仕様とも合格した。国交省に認定申請し、過日認定書が発行された。

H1733 : 最大梁間 4,000 mm、裏打ち材(3 種類)あり及びなし仕様  
認定番号 FP030RF - 1877 (1)、(2)

H1750W(GW16 kg品) : 最大梁間 5,000 mm、裏打ち材(3 種類)あり及びなし仕様  
認定番号 FP030RF - 1879 (1)、(2)、(3)、(4)

### (3) 認定書発行管理体制の整備

大臣認定書の発行管理について、以下のシステム開発等を行った。



#### 大臣認定書発行管理システムの開発と運用

大臣認定書の発行と管理を、平成 21 年 4 月 1 日より全面的に電子媒体で行っている。  
新規取得の 2 認定についてはシステムを追加し、平成 29 年 4 月から運用を目指している。

#### 認定書の発行業務

委員会の発行する認定書は、従来認定(5 件)と二重折板認定(3 件)を各々合本として発行し、追加認定(12 件)は認定ごと個々に発行している。平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月までの認定書発行数は、148 通である。

#### (4) 広報活動

本年度は、主に会員企業を対象に認定内容並びに大臣認定書(写し)の発行管理体制の周知に努めた。また、日本金属屋根協会の講習会・機関誌・建築専門誌等を通じた広報活動も行った。

#### 認定内容の説明会ならびに ID 取得講習会

会員企業を対象に、二重折板認定・従来認定・追加認定の内容について説明会を実施した。また同時に ID 取得のための認定書発行システムおよび発行手続きの講習会を全国 5 会場で開催した。講師は技術分科会委員が担当した。

会 場	開 催 日	出 席 者 数	ID取得者数(内数)
札 幌	H29 年 2 月 24 日(金)	7 名	4 名
仙 台	H28 年 7 月 22 日(金)	6 名	2 名
東 京	" 7 月 15 日(金)	8 名	3 名
大 阪	" 7 月 29 日(金)	11 名	7 名
福 岡	" 7 月 29 日(金)	8 名	3 名
合 計		40 名	19 名

#### ホームページの運営

平成 21 年 1 月から、協会ホームページと一体化して運営している。  
平成 28 年 10 月に修正・追記を実施した。

#### 協会講習会での広報

協会が実施する「金属屋根講座」において『快適空間創造へのいざない / 折板屋根にできること』の配布を実施した。本年度は、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、福岡で開催した。

#### 日経アーキテクチュア(日経 BP 社)への広告

同誌 2016 年 10 月号・別冊特集『美しい屋根 2016』に委員会が取得している大臣認定一覧と認定書(写し)の発行管理を紹介した。

#### (5) 品質の維持・向上

認定製品の品質・性能等を自主的に確認するため、以下の事業を実施した。

#### 会員工場の技術審査

会員を対象に、委員会の管理する大臣認定に係る保有設備、社内管理状況、断熱材張り等に関する審査を会員 9 社で実施した。9 社すべてが審査に合格した。

### 新入会員の技術審査

新入会員を対象に、折板等成形機・裏張り設備等の保有設備、社内標準(品質管理・設備管理・苦情処理等)の整備状況に関する審査を実施した。

併せて、委員会取得・管理の耐火認定内容や認定書発行管理システムに関する説明を行った。

### (6) 調査

耐火構造試験等の実施の基礎資料とするため以下の調査を行った。

#### 難燃剤規制への対応

折板の裏打材に使用されている現行難燃剤(デカブロモジフェニルエーテル)の世界的な製造・使用規制に先立ち、会員独自取得の耐火認定別添に現行難燃剤名称記載の有無をアンケート調査した。

2月に「難燃剤規制に伴う会員の皆様の対応について(添付資料付き)」の案内文を配布した。

#### 耐火構造認定候補の調査

29年度以降の屋根30分耐火構造認定の取得希望仕様のアンケートを実施した。

### (7) その他

#### 「構造方法等の大臣認定材料・構造等に関する製造実績調査」について

(一社)建築性能基準推進協会から、建築行政の適切な情報整備に資するためとして平成27年度の製造実績調査依頼があった。

これについて委員会は、製造実績を把握していないため、認定書の発行件数を報告することで対応した。

#### 他団体との交流

委員会は、断熱亜鉛鉄板に関する各種情報を得ることを目的に、主に次の団体と交流している。

- ・防火材料等関係団体協議会
- ・防火工法推進協議会

## 8. 広報事業

### (1) 機関誌「金属屋根 施工と管理」の発行

機関誌の発行に際しては、定期的に広報委員会を開催し、その充実に努めている。機関誌は会員のほか官公庁・設計事務所・総合工事業者等にも送付している。

平成28年度の特集記事は次の通りである。

表 14 機関誌特集記事

号	タイトル	執筆者等
'16年4月号	外壁材の飛来物耐衝撃性試験	技術委員会
5月号	木造建築物における折板接合部の確認試験	技術委員会
6月号	金属屋根・外壁と地震	技術委員会
7-8月号	最新 非住宅の断熱基準と鋼板製外装材(修正版・上)	金子優一
9月号	金属サイディングによるモルタル壁の重ね張り改修	日本金属サイディング工業会
10月号	留め付けねじの端あき強度試験	技術委員会

号	タイトル	執筆者等
11月号	折板屋根 耐火構造の基本	断熱亜鉛鉄板委員会
12月号	カラーアルミ建材 追跡調査報告 2016	アルミニウム建築構造協議会
'17年1月号	最先端技術と匠の技で完全球体の防水に挑む	広報委員会
2月号	LLM2017 を発行しました	事務局
3月号	鋼板「一文字ぶき」動風圧試験 試験結果報告	技術委員会

## (2) ホームページの運営

協会ホームページは、14年2月1日より正式に公開している。平成28年度も、ほぼ2ヶ月に1回程度のペースで見直しを行った。また、断熱亜鉛鉄板委員会のホームページも更新している。

28年度は3月までに、約24万件のアクセス数があった。主な内容と更新状況は以下の通り。

表 15 ホームページ

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
トップページ...掲載写真を随時更新、デザイン更新	鋼板製外壁材飛来物耐衝撃性試験
金属屋根素材の解説...従来通り	動画もアップ
主な金属屋根の製品紹介...従来通り	LLM2017 の紹介ページ
環境配慮型屋根...従来通り	
屋根ふき材の構造計算...従来通り	
テクニカルレポート...5件の技術リポートを追加	
スレート屋根改修のご提案...従来通り	
講習会・試験のお知らせ...随時見直し	
金属屋根工事技士制度の紹介...従来通り	
工事管理報告書...従来通り	
出版物案内...紹介図書の追加、修正。	
統計...内容更新	
施工写真集...掲載写真を追加	
用語集...従来通り	
あの屋根・この屋根...1件の記事を追加	
銅屋根クロニクル...9件の記事を追加	
会員名簿...随時見直し	
協会の情報公開...平成28年度の内容に更新	

表 16 アクセス数

アクセス数の推移(H14/2～H29/3)		
	アクセス数	ヒット数
H14/2～H28/3	1,733,697	93,858,713
H28/4～H29/3	239,247	25,542,662
計	1,972,944	119,401,375

(3) 建築系工業高校への広報活動

平成 19 年 9 月号より金属屋根に対する理解促進等を図るため、全国の建築系学科を有する工業高校への機関誌の配布を行っている。

(4) 書籍等の頒布

以下の書籍等について会員及び一般向けに頒布を行った。

初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014 計算ソフト「屋根を調べる 2015」 金属屋根の施工と管理 - 改訂 4 版 - 鋼板製外壁構法標準 SSW2011 鋼板製屋根構法標準 SSR2007 素材からみる金属屋根と外壁 改訂・銅板屋根構法マニュアル 風と金属屋根 - 改訂版 - 屋根改修工事の手引き

9. その他

(1) 国土交通大臣顕彰「優秀施工者」(建設マスター)受彰

建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を、国土交通大臣が顕彰する、平成 28 年度優秀施工者に 3 氏が選ばれた。当会としての受彰者は 56 人となった。また、昨年度から創設されたジュニアマスターに 2 名が選ばれた

【建設マスター】

柴 和延(柴板金・東京)

竹田一義(タケダメタル・愛媛)

西山敏也(ニシヤマ・長野)

【ジュニアマスター】

工藤国保(丸修くどう板金・青森/三晃金属工業)

三宅竜也(三宅板金工業・熊本/淀川製鋼所)

(1) 公益目的支出計画変更認可について

計画の 1 年延長について内閣府より 11 月 25 日付で認可を受けた。

以 上